

## 1. プログラムの問題点・課題点

### (学年歴の違い)

- ・ 日本とは異なるアセアン諸国の学年歴は、学生交流プログラムの実施上、配慮が必要な課題の一つと認識している。特に、日本とは夏季や冬季の休業時期が大きく異なる国が少なくないことから、当初の予想よりも、本学実施の夏季短期プログラムなどにアセアン側の連携大学学生の参加を募ることに苦労している。

### (日本留学の経済的負担)

- ・ アセアン側の学生が日本へ留学に来る際の経済的負担の軽減も、双方向の学生交流を実施するうえでの課題と認識している。アセアン諸国の学生にとっては、JASSO 短期奨学金を受給したとしても、日本への渡航滞在費の負担は重く、本学との交流プログラムへの参加に躊躇せざるを得ないとの声が聞かれている。

## 2. グッドプラクティスの事例

### (明治大学アセアンセンター — 現地教育拠点の設置)

- ・ 本学では、アセアン側連携大学等との学生交流のハブとして、本年 5 月よりタイ・バンコクに「明治大学アセアンセンター」を設置している。
- ・ 同センターは、50 名規模の教室 1 室および 20 名規模のセミナールーム・会議室 4 室を備えており、タイを中心とするアセアン諸国の連携大学との間で (1) 本学学生と現地学生との共同ワークショップ等の学生交流、(2) 現地学生等に対する日本語教育や遠隔講義等の実施、(3) 現地進出日系企業と連携した教育プログラム、などを行うものである。
- ・ こうした現地教育拠点の設置は、本学からの学生送り出しの拠点となるばかりでなく、学年歴の違いや経済的負担などの理由から日本への留学が難しいアセアン諸国の学生との交流を可能とするものとする。